

岩櫃山・浅間隠山(2018 春の再会山行)

斉藤 整紀

●2018 年 5 月 5 日～6 日（共に祝日）

●メンバー

黒澤・松田(CL)、谷野、小島、斉藤整

●コースタイム

5 日（土・祝） 所沢～岩櫃山～鹿沢温泉 晴れ

所沢駅（車）7：00⇒9：00 ららん藤岡（黒澤氏合流）
⇒榛名湖畔⇒（昼食）⇒平沢口登山口 P12：10⇒（沢
通り）⇒岩櫃山 13：55⇒（蜜岩通り）⇒赤岩通り登山
口 15：00⇒（赤岩通り）⇒（尾根通り）⇒岩櫃城本丸
城跡 16：40⇒17：00 平岩登山口 P⇒（車）⇒18：00 鹿
沢温泉・紅葉館（泊）

今回は、黒澤氏の群馬県下企画原案の中から、松田氏がピックアップし、「混まない」という経験則から、連休最終日前日に出かけ、最終日に帰るプランである。

所沢駅で小島嬢・谷野嬢とともに松田車にお邪魔。7 時、ゆったりの出発だが、予想通り道は空いている。黒澤氏と待合せの道の駅「ららん藤岡」には予定の 9 時より 30 分も早く到着。その後も順調で、榛名湖畔を經由し、吾妻線、吾妻川の鉄橋越しに岩櫃山の全容が眺められる道端から写真撮影。



その後、岩櫃山平沢登山口手前の蕎麦屋で昼食を楽しんだ。岩櫃山は、先の「真田丸」のオープニングの様に、南面 200m の絶壁を擁し、中腹に山城があったもの。今日の山行では、平沢登山口より、沢通りを上って、山頂へ。さらに天狗の架け橋などを経て、帰路は尾根通りから岩櫃城本丸跡を見て下るプランで、3 時間程度の予定である。

まず、沢筋の涼しく、気持ちの良い上りを楽しむ。

1 時間程で東の岩峰に到着し、休憩。青空の下、岩櫃山は、山頂の尖った岩峰に鎖が垂れた見事な鋭角山容である。岩櫃山頂は 800m 余りの低山だが、ミニ妙義の様相。



勿論、360 度の好展望である。東に赤城連峰、西に四阿山、南に妙義山、北に稲包山等が望める。真下を覗くと、妙義並の迫力があり、足が竦む。

次は、天狗の架け橋を求めて、蜜岩通りへ下る。急斜面の鎖場や大岩潜り等、中々のバリエーションである。天狗の架け橋は脆い岩質とのことで、迂回し、先を急いだ。



しかし、行けども、行けども尾根通りへの合流点が見当たらない。とうとう平地の赤岩通り登山口まで下ってから上り返すことになった。皆、想定外の迂回で寡黙になりながらも、長い急斜面をこなし、鎖場を登り切り、再び山頂手前の尾根に到達した。

しかし問題発生！ここでも尾根通りへの合流店が分からない。観光案内の地図で確認すると、右、南側と思いきや、実際は左、北側にあった。ここでは谷野女史の判断が光った。ようやく辿り着いた本丸跡を囲むように、「真田丸」系の赤い幟旗がはためく。



そんな経緯で、時間に余裕の筈が、本丸跡から平沢登山口へ戻ったら17時になってしまい、結局、ハッ場ダムは割愛し、今夜の宿・鹿沢温泉「紅葉館」へ急いだ。この宿は「雪山賛歌」の宿として有名で、下の新鹿沢温泉に移らないで秘湯を守っているとのこと。

6日（日・祝） 浅間隠山～帰宅 晴れ

紅葉館 9:00（車）⇒北軽井沢駅舎⇒11:00 二度上峠下登山口→浅間隠山 12:15～50→14:00 二度上峠下登山口→はまゆう山荘（入浴）15:00⇒（車）⇒18:00 所沢駅

宿が1500mの高地に立つため、宿前の桜はまだ6分咲き程度。その上の日当たりの良い桜は満開。宿の斜前には西堀栄三郎氏の「雪山賛歌」の碑がある。西堀氏や京大山岳部の関係者がこの宿を愛したという。



ゆっくり9時に出発。途中、北軽井沢駅の保存遺産を見学。法政大学寄付を反映、欄間に「H」が並ぶ。木材の切り株をもらって、再出発。



車は高度を上げ、二度上峠には車が多く停まり、立派な浅間山が眺められる。そこから少し下がった左に、浅間隠山二度上峠下登山口があり、枯れた沢沿の径に取付く。

浅間隠山は、山頂部は端正な三角形で、川浦富士、矢筈山とも呼ばれ、日本二百名山に数えられる。1757mあり、名前の由来は、中之条方面からは浅間山が隠れるためとか。登山道は整備された気持ちの良い径が伸びている。カラマツ林から、楷、ブナ、白樺などの雑木林を経て、やがて笹原の尾根へと進む。季節柄、木々は新芽が出たての状態で、概ね展望がある。

更に高度を上げると、頗る展望が良くなる。山頂直下から北アルプスの展望が飛び込んでくる。山頂は、北側の一部が木で遮られるものの、正面に大きな浅間山。北に草津白根山、谷川連峰、日光連山。東に昨日通った榛名山、赤城連山。南に鼻曲山、妙義山、その奥に真白き富士の峰が控える。南ア北部、そしてハケ岳連峰もくっきり。



昼食を摂りながら山座固定を楽しむ。去りがたいが山頂に別れを告げ、整備された元来た径を下り、3時間の山旅を終えた。

帰路、高崎市営の「はまゆう山荘」で入浴。皆が、市民黒澤料金の恩恵に与った。帰りも、一般道、高速とも、ヨミ通り、車は空いており、18時には所沢駅に着いた。「松田さんお疲れ様！」

松田氏絡みのこの企画も、様々な思い出を残しながら、何年も続いている。松田氏のご好意の企画や谷野女史始め、皆様のご好意で成り立つ山行企画であるが、あと、何回出られるだろうか？不安もあるが、出来る限り、参加して楽しみたい。（了）